

放課後や休み時間を活用した自然観察・体験活動の充実「見触笑でGO!」の実践

目の前の大自然を 活かす教育



自然豊かな校内で観察開始!

ゲーム的な要素を取り入れた取り組み

十勝岳連峰を望む美瑛（びえい）町立美沢（みさわ）小学校は、約5haの広大な校地にセキレイや野ウサギが姿を見せる自然豊かな学校だ。学区も広く、スクールバス通学の児童が多いため、放課後はバスを待つ時間ができる。この時間を有効利用すべく始めた取り組みが「見触笑（みさわ）でGO!」だ。

児童が使うデジタルカメラを数台用意して、「ムクドリを撮る」などの課題をクリアすればポイントを与え、撮った写真を各児童がファイリングしていく。布施司校長は「児童にとっては豊かな自然が当たり前なものとなっているので、こちらが働きかけなければ興味や探究心は高まりません。そこで、ゲーム的な要素を取り入れて興味を喚起しました。参考にしたのは『ポケモンGO』です」と話す。



美瑛町立美沢小学校



●実施担当

片倉彬貴 教諭

●活動のモットー

美沢小ならではの恵まれた自然環境を最大限に活かして、児童が自らの体験の中から学びを身に付けていけるような指導を心がけている。



画像はすぐに確認



軽石を持つ6年生の陸斗さん



校長先生、教えてください!!

芽吹き始めた次世代への成果

効果はてきめんだった。当初は写真課題の「見」から、直接自然に触れる「触」を経て、それらを理科や生活の授業に活かすことで自然への興味を高める「笑」につなげる予定だったが、児童たちはすぐに自然観察に夢中になった。興味の対象も生き物から草花や軽石などに広がった。美瑛町はたびたび十勝岳の噴火に見舞われており、地中からは1926年の大正土石流などで運ばれてきた軽石が出土する。6年生の大場陸斗（りくと）さんも軽石探しに熱中するひとりで「自由研究のテーマにしたい」と言う。

担当の片倉彬貴（よしとか）教諭は「児童たちにはこの土地を好きになって、この土地のことを話せるようになってほしいです」と願う。それに応えるかのように、将来は農業を継ぐと言う陸斗さんも「畑から軽石が出るので、それを調べることを続けたいです」と話す。次世代につながる成果が、早くも芽吹き始めている。（平成30年度個別助成）

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索